

中国語話者における日本語の有対動詞の自動詞・他動詞・受身の 選択について —動作主の不注意による対象の変化を表す場合—

杉村 泰

1. はじめに

日本語学習者(以下「学習者」)にとって有対動詞の自動詞・他動詞・他動詞の受身形(以下「受身」)の選択は習得困難な項目の一つである。このうち、本稿では動作主の不注意による対象の変化を表す場合について考察する。日本語母語話者(以下「日本語話者」)の場合、例(1)、例(2)において他動詞を選ぶ人が多く、自動詞を選ぶ人は少なく、受身を選ぶ人はほとんどいない。しかし、学習者の場合は例(1)、例(2)ともに自動詞も他動詞も受身も選択されるという違いが見られる。

- (1) 転んで骨{が折れて/を折って/*が折られて}しまった。
- (2) カレーを食べた時に、シャツ{が汚れて/を汚して/*が汚されて}しまった。

そこで本稿では、動作主の不注意による対象の変化を表す場面を7つ取り上げ、母語話者と学習者とで自動詞・他動詞・受身の選択に関していかなる違いを見せるかについて論じる。また、対応する中国語の表現と比較することにより、中国語の影響を受けている可能性があるかどうかについても考察する。

2. 先行研究

学習者にとって有対動詞の自動詞、他動詞、受身の選択が困難であることは、守屋

(1994)、小林(1996)、中村(2002)、曾(2012)など多くの先行研究で指摘されている。このうち、守屋(1994)は日本語の自動詞と他動詞の選択基準には図1のような条件が関わるとして、条件2～4の場合には人為的なイベントであっても自動詞が選択されると述べている。また、条件5に関しては、「イベントが非意図的に成立した場合でも、主体のテリトリー、責任の範囲でおきた場合は、他動詞を用いることがある」(p.163)と述べている。

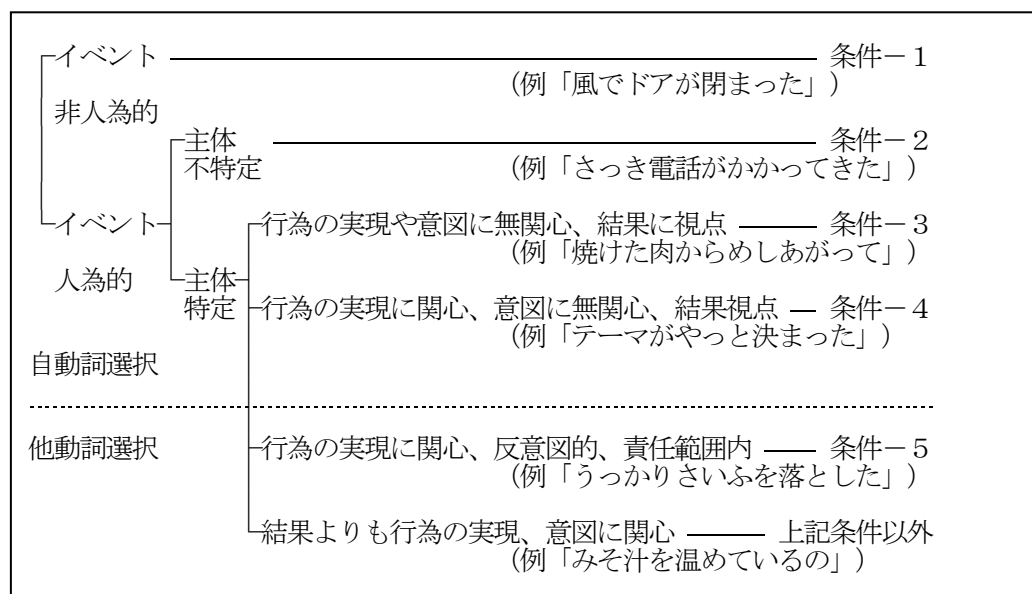


図1 守屋(1994)の自他動詞の選択条件

ここで守屋(1994)は中級前半から中頃程度の学習者(中国語系 60 名、韓国語系 49 名、英語系 21 名)を対象に、例(3)～(5)のようなアンケートを 23 問実施した。

- (3) ドア[を/が]風でボタンと(閉めた/閉まった)。(守屋 1994 の例①)
- (4) うっかりさいふ[を/が](落として/落ちて)しまってね、今日はお金が全然ないんだ。
(守屋 1994 の例⑫)
- (5) そのTシャツ、どうしてそんなに(汚して/汚れて)しまったの。(守屋 1994 の例⑭)

その結果、「動詞の自他の選択の難しさは、程度の差はあれ、自動詞選択のむずかしさにある」(p.163)として、図1の条件のうち「1から4へと次第に習得が難しくなっていく」(p.163)と指摘している。また、例(4)、例(5)に関しては、表1の集計結果を提示して、学習者の選択について以下のように述べている。

表1 守屋(1994)の集計結果 (★は正答を示す)

	中国語系(60名)		韓国語系(49名)		英語系(21名)	
	総数/内訳(重複)		総数/内訳(重複)		総数/内訳(重複)	
⑫★さいふをおとしてしまってね	37	35 2)	47		10	
さいふがおちてしまってね	14	12 -・	1		7	
さいふをおちてしまってね	0		1		4	3 1)
さいふがおとしてしまってね	11		0		1	0 -・
⑭★どうしてそんなによごれてしまった	16		15		8	
★どうしてそんなによごしてしまった	44		34		13	

⑫の誤用があらわれたのは「さいふが落ちる」という現象が、意図的には行われにくい点と、文の構造上主体が文中に現れない点、「～してしまった」という結果相にかかわる表現を伴っている点で、自動詞がえられやすいことが一つの理由として考えられる。一方、「さいふが落として」の誤用も同様に選ばれているが、これも「さいふを落とした」では意図的に落とした感じとなると被験者が考え、それを避けようとして生じた可能性がある。もちろんこれらの誤用は、単に形式的な混乱によるとも考えられるが、非意図的で意志に反していても、日本語では主体の責任の範囲での行為であれば他動詞を選ぶという条件(条件-5)があり、その点の理解が不足したためとも思われる。(守屋 1994:159-160)

⑭の他動詞は⑧¹と違い、条件-5の主体の意図には反するが主体の責任の範囲にあるために選ばれる他動詞であり、⑧に比べ、他動詞がより積極的に選ばれており、この点も「さいふを落としてしまった」に正答が比較的多かったこととあわせて、よく習得されているようにみうけられる。(守屋 1994:162)

守屋(1994)の分析は、自身も「ひとつまちがうと「あとからつけた理屈」にすぎなくなるおそれが大である」(p.163)と述べているように、後付けの論理になるきらいがある。しかし、日本語の自他選択には①人為的行為か否か、②動作主が特定の否か、③話し手の関心

¹ ⑧「もしもし、背中に何か(つけて/ついて)いますよ。とってあげましょう」

が行為にあるか結果にあるかが関わることを示し、学習者は①②③の順にその処理が難しくなることを指摘している点で重要な研究である。これを受け、筆者(杉村)は守屋(1994)の研究に以下の修正や補強を行うことにより、日本語学習者の自動詞・他動詞・受身の選択に関して綿密な分析を進めている。(杉村 2013a,b,c)

1) 「受身」の追加

守屋(1994)は自動詞と他動詞の選択のみを分析の対象にしているが、学習者の誤用には受身との混同もよく見られるため、本研究では受身も分析の対象に加える。

2) 事態の分類

守屋(1994)の事態の分類は、動作主の特定・不特定に関して分類基準が恣意的になりやすいため、本研究では動作主が特定の個人または複数の人物の場合は「特定」、不特定多数や社会一般の場合は「不特定」と考える。したがって、図1の「電話」の例は、かりに電話をかけた人物が不明であったとしても、特定の誰かがかけていることには違いないため、本研究では「動作主特定」と考える。また、守屋(1994)では受身の出やすい「被害や迷惑の意味」を表す場合がなかったり、非人為的事態の分類がされていなかったりするなど、より細かい分類が望まれる。そのため、本研究では事態の分類を守屋(1994)の6分類から12分類へと細かくした。(次頁の図2参照)

3) 日本語話者の調査

守屋(1994)では研究者一人で日本語の母語判断を行っている。しかし、この種の研究は個人差による「ゆれ」が大きいため、本研究では多数の日本語話者を被験者として自動詞・他動詞・受身の選択傾向を見る。

4) 学習者の母語での調査

守屋(1994)では日本語の調査のみ行われているが、本研究では学習者の母語でも同様の調査をして、母語による影響の有無を見る。

5) 学習者の習得レベル別調査²

守屋(1994)では中級レベルの学習者のみを被験者としているが、本研究では日本語能力試験のN1合格レベル、N2合格レベル、N3合格レベルの三者を比較して、学習者の習得レベルによる違いを見る。

² これに関しては紙幅の関係で本稿の考察の対象外とし、別稿に譲ることとする。

3. 調査の概要

本稿では、動作主の不注意による対象の変化を表す場面を7つ取り上げ、母語話者と学習者で自動詞・他動詞・受身の選択に関していかなる違いを見せるかについて論じる。そこでまず、守屋(1994)の自他動詞の選択条件に受身を加えて、図2に示すような12の事態に分類した。このうち事態⑩を主な分析対象とし、比較の対象として事態④と事態⑪についても見ていく。図2において本稿の考察対象を網掛けで示しておく。

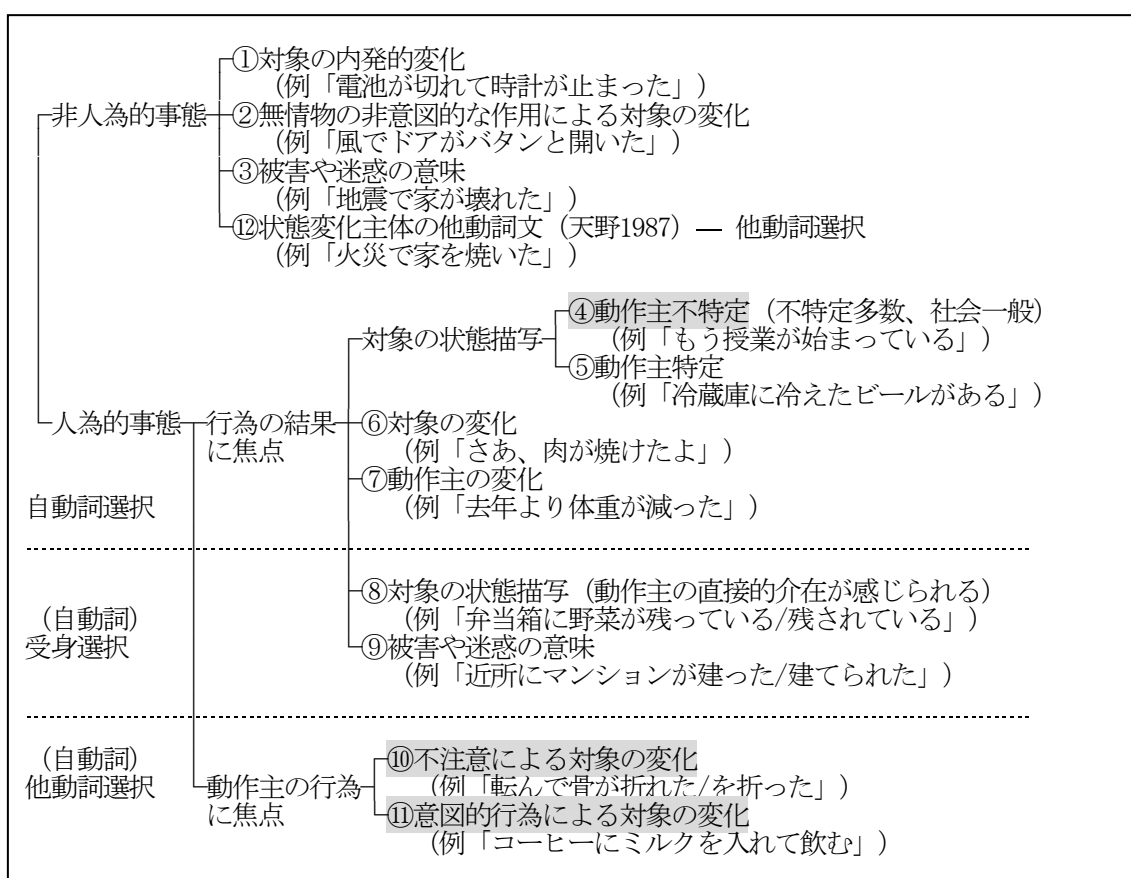


図2 本稿における事態の分類と母語話者の選択傾向

次にこの分類に応じて合計 60 問の日本語のアンケート項目を作成した。アンケートは守屋(1994)や曾(2012)にならい、被験者に格助詞「が/を」と「自動詞/他動詞/受身」を同時に選択させる方法を用いた。これにより自他の形態的な誤用と自動詞・他動詞・受身の選択意識とを区別して見ることができる。さらに、この 60 問のアンケート項目にほぼ対応する中国語のアンケート項目を作成した。中国語の場合は格助詞「が/を」に相当する形式がない

ため、「自動詞/他動詞/受身」のみを選択させた。日中いずれのアンケートでも、被験者には最も適当だと思うものを一つだけ選択させた。被験者は次のとおりである。

A. 日本語アンケート

・日本語母語話者

名古屋大学学部生 114 名 (2012 年 5 月 8～10 日に名古屋大学にて実施)

・中国語を母語とする上級日本語学習者 (ほぼ N1 合格レベル)

湖南大学日語系3年生 58 名 (2012 年 5 月 24 日に湖南大学にて実施)

(例) 転んで骨(が/を) (折れて/折って/折られて)しまった。

B. 中国語アンケート

・中国語母語話者

華東政法大学外語学院日語専業 52 名 (2013 年 2 月 27 日、3 月 4、7 日に華東政法
大学にて実施)、上海師範大学天華学院日語系 122 名 (2013 年 3 月 27、28 日に上
海師範大学天華学院にて実施)、東華大学外語学院日語系 36 名 (2013 年 3 月 7 日
に東華大学にて実施) 合計 210 名

(例) ①因摔跤骨折了。³

②因摔跤折断了骨头。

③因摔跤骨头被折断了。

このようにして、日本語話者、学習者、中国語母語話者 (以下「中国語話者」) の選択率を集計した。このうち、事態④、⑩、⑪の結果を表1に示す。表中、日本語アンケートにおいて被験者が「が-自動詞」の組み合わせで選んだものは「自動詞」、「を-他動詞」は「他動詞」、「が/を-受身」は合わせて「受身」とし、格助詞と自他の組み合わせがねじれているものは合わせて「ねじれ」⁴とした。また、便宜上表および後の図の中では日本語話者は「日本人」、学習者および中国語話者は「中国人」と表記してある。

³ 中国語文の①は自動詞文、②は他動詞文、③は受身文である。以下同様。

⁴ 中国語アンケートでは「ねじれ」はないので「-」とした。

表1 自動詞・他動詞・受身・ねじれの選択率(%)

		自動詞	他動詞	受身	ねじれ
事 態 ④	1. もう授業(が/を)(始まって/始めて/始められて)いるから急ごう。				
	中国人・中国語	99.0	0.5	0.5	-
	中国人・日本語	89.7	1.7	1.7	6.9
	日本人・日本語	99.1	0.0	0.0	0.9
	2. この町には鉄道(が/を)(通って/通して/通されて)いる。				
	中国人・中国語	87.1	7.6	5.2	-
	中国人・日本語	70.7	5.2	1.7	22.4
	日本人・日本語	96.5	1.8	1.8	0.0
	事 態 ⑩	3. 英語の単位(“学分”)(が/を)(落ちて/落として/落とされて)留年した。			
中国人・中国語		70.5	27.6	1.9	-
中国人・日本語		60.3	27.6	10.3	1.7
日本人・日本語		0.9	95.6	3.5	0
4. 不注意でポケットから財布(が/を)(落ちて/落として/落とされて)しまった。					
中国人・中国語		79.5	7.1	13.3	-
中国人・日本語		46.6	37.9	6.9	8.6
日本人・日本語		37.7	59.6	2.6	0
5. 転んで骨(が/を)(折れて/折って/折られて)しまった。					
中国人・中国語		67.6	25.2	7.1	-
中国人・日本語		29.3	34.5	24.1	12.1
日本人・日本語		17.5	80.7	1.8	0
6. 遊んでいる時、不注意で梅の枝(が/を)(折れて/折って/折られて)しまった。					
中国人・中国語		2.9	89.5	7.6	-
中国人・日本語		6.9	69.0	10.3	13.8
日本人・日本語		16.7	80.7	2.6	0
7. 不注意で皿(が/を)(割れて/割って/割られて)しまった。					
中国人・中国語		5.2	91.4	3.3	-
中国人・日本語		8.6	60.3	12.1	19.0
日本人・日本語		22.8	77.2	0	0
8. カレーを食べた時に、シャツ(が/を)(汚れて/汚して/汚されて)しまった。					
中国人・中国語		5.7	74.8	19.5	-
中国人・日本語		13.8	39.7	36.2	10.3
日本人・日本語		37.7	61.4	0	0.9
9. 飲みすぎて胃(が/を)(壊れて/壊して/壊されて)しまった。					
中国人・中国語		27.6	64.3	8.1	-
中国人・日本語		34.5	37.9	17.2	10.3
日本人・日本語	35.1	64.9	0	0	

		自動詞	他動詞	受身	ねじれ
事 態 ⑩	10. コーヒーにミルク(が/を)(入って/入れて/入れられて)飲む。				
	中国人・中国語	22.4	76.2	1.4	-
	中国人・日本語	3.4	89.7	0.0	6.9
	日本人・日本語	2.6	95.6	1.8	0.0
	11. 電子レンジで冷えたスープ(が/を)(温まった/温めた/温められた)。				
	中国人・中国語	1.4	84.3	14.3	-
	中国人・日本語	8.6	75.9	13.8	1.7
日本人・日本語	5.3	90.4	4.4	0.0	

表 1 において、いかなる場合に「ねじれ」の割合が高くなるのかということも興味深い研究である。しかし、それは別の機会に譲ることにして、本稿では「ねじれ」を除く「自動詞」、「他動詞」、「受身」の選択率のみに焦点を絞って議論する。そこで、表 1 から「ねじれ」を除き、「自動詞」、「他動詞」、「受身」の合計が 100 パーセントになるように選択率を計算し直したうえで、この数字をもとに χ^2 二乗検定および残差分析を行った。その結果を表 2 に示す。以下、事態④、事態⑩、事態⑪の順にそれぞれの特徴を見ていく。

表2 自動詞・他動詞・受身の選択率(%)と検定結果

		自動詞	他動詞	受身	検定結果(「ねじれ」は除外)
事 態 ④	1. もう授業(が/を)(始まって/始めて/始められて)いるから急ごう。				
	中国人・中国語	99.0	0.5	0.5	$\chi^2(4)=4.828, p=.305, n.s.$
	中国人・日本語	96.3	1.9	1.9	
	日本人・日本語	100	0	0	
	2. この町には鉄道(が/を)(通って/通して/通されて)いる。				
	中国人・中国語	87.1	7.6	5.2	$\chi^2(4)=7.964, p=.093, n.s.$
中国人・日本語	91.1	6.7	2.2		
日本人・日本語	96.5	1.8	1.8		
事 態 ⑩	10. コーヒーにミルク(が/を)(入って/入れて/入れられて)飲む。				
	中国人・中国語	22.4	76.2	1.4	$\chi^2(4)=30.713, p<.001$ 自・他において有意差あり
	中国人・日本語	3.7	96.3	0	
	日本人・日本語	2.6	95.6	1.8	
	11. 電子レンジで冷えたスープ(が/を)(温まった/温めた/温められた)。				
	中国人・中国語	1.4	84.3	14.3	$\chi^2(4)=15.366, p<.01$ 自・受において有意差あり
中国人・日本語	8.8	77.2	14.0		
日本人・日本語	5.3	90.4	4.4		

	自動詞	他動詞	受身	検定結果(「ねじれ」は除外)	
事 態 ⑩	3. 英語の単位(“学分”(が/を)(落ちて/落として/落とされて)留年した。				
	中国人・中国語	70.5	27.6	1.9	$\chi^2(4)=162.262, p<.001$ 自・他・受において有意差あり
	中国人・日本語	61.4	28.1	10.5	
	日本人・日本語	0.9	95.6	3.5	
	4. 不注意でポケットから財布(が/を)(落ちて/落として/落とされて)しまった。				
	中国人・中国語	79.5	7.1	13.3	$\chi^2(4)=108.521, p<.001$ 自・他・受において有意差あり
	中国人・日本語	50.9	41.5	7.5	
	日本人・日本語	37.7	59.6	2.6	
	5. 転んで骨(が/を)(折れて/折って/折られて)しまった。				
	中国人・中国語	67.6	25.2	7.1	$\chi^2(4)=122.22, p<.001$ 自・他・受において有意差あり
	中国人・日本語	33.3	39.2	27.5	
	日本人・日本語	17.5	80.7	1.8	
	6. 遊んでいる時、不注意で梅の枝(が/を)(折れて/折って/折られて)しまった。				
	中国人・中国語	2.9	89.5	7.6	$\chi^2(4)=24.247, p<.001$ 自・他・受において有意差あり
	中国人・日本語	8.0	80	12.0	
	日本人・日本語	16.7	80.7	2.6	
	7. 不注意で皿(が/を)(割れて/割って/割られて)しまった。				
	中国人・中国語	5.2	91.4	3.3	$\chi^2(4)=42.433, p<.001$ 自・他・受において有意差あり
	中国人・日本語	10.6	74.5	14.9	
	日本人・日本語	22.8	77.2	0	
	8. カレーを食べた時に、シャツ(が/を)(汚れて/汚して/汚されて)しまった。				
	中国人・中国語	5.7	74.8	19.5	$\chi^2(4)=89.884, p<.001$ 自・他・受において有意差あり
	中国人・日本語	15.4	44.2	40.4	
	日本人・日本語	38.1	61.9	0	
	9. 飲みすぎて胃(が/を)(壊れて/壊して/壊されて)しまった。				
	中国人・中国語	27.6	64.3	8.1	$\chi^2(4)=24.821, p<.001$ 他・受において有意差あり
	中国人・日本語	38.5	42.3	19.2	
日本人・日本語	35.1	64.9	0		

4. (動作主が不特定の)対象の状態描写を表す場合(事態④)

事態④は、動作主が不特定で対象の状態描写を表す場合である例1、例2(図3、図4)。この場合、日本語話者の日本語、学習者の日本語、中国語話者の中国語の全てにおいて、ほとんどの人が自動詞文を選択し、有意差のないことが分かる。このように人為的事態であっても、動作主の存在が背景化されて対象の状態描写に話し手の焦点が行く場合には、日中両言語とも対象が主語となる自動詞文が選ばれやすい。この場合、学習者にとっては母語である中国語と目標言語である日本語の間に差が生じないため、習得しやすい項目に

なると考えられる。

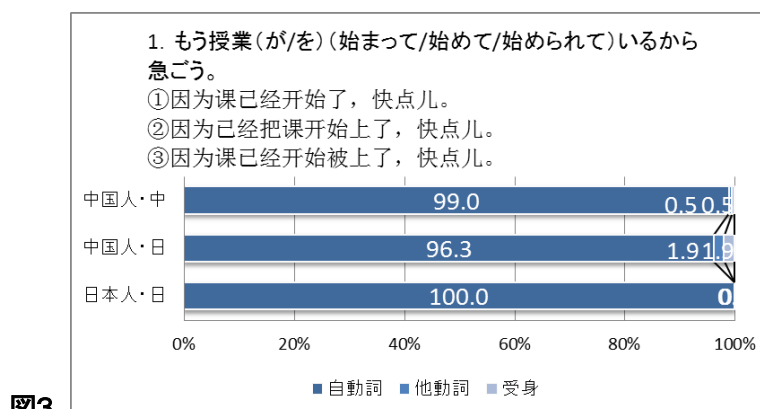


図3

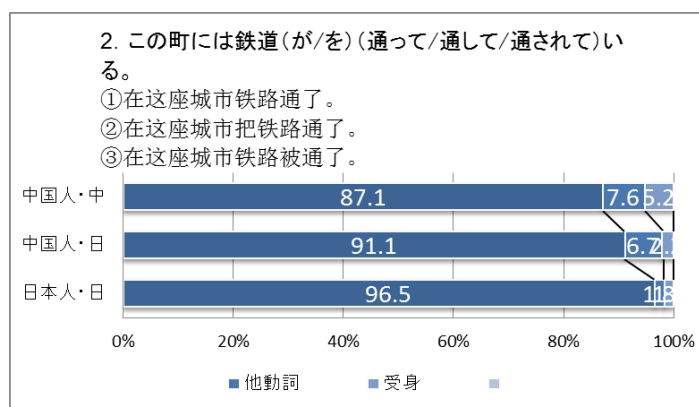


図4

5. 意図的行為による対象の変化を表す場合(事態①)

事態①は、動作主の意図的行為による対象の変化を表す場合である例 10、例 11(図5、図6)。この場合、日本語において日本語話者も学習者もほとんどの人が他動詞文を選択し、中国語でもほとんどの中国語話者が他動詞文を選択している。ここで例 10(図5)の場合、日本語話者と学習者の選択率には有意差がないものの、中国語では自動詞文の選択率が有意に高くなっている。しかし、学習者はその影響を受けずに日本語話者並みに他動詞文を選んでいる。また、例 11(図6)の場合、他動詞においては有意差がないものの、自動詞と受身において有意差が出ている。ただし、全体的に他動詞を選びやすいという点で、学習者にとって習得しやすい項目であると考えられる。

中国語話者における日本語の有対動詞の自動詞・他動詞・受身の選択について

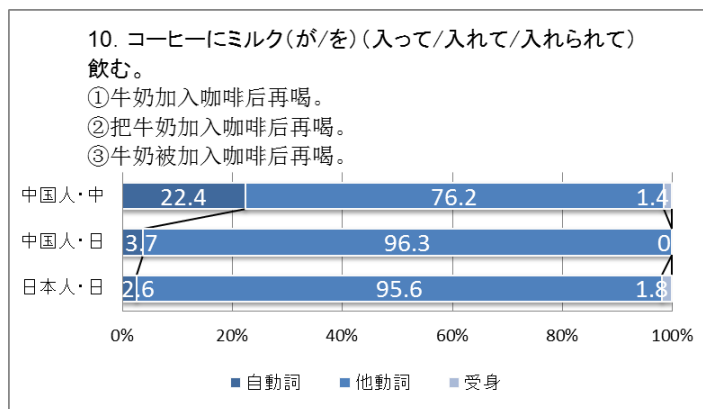


図5

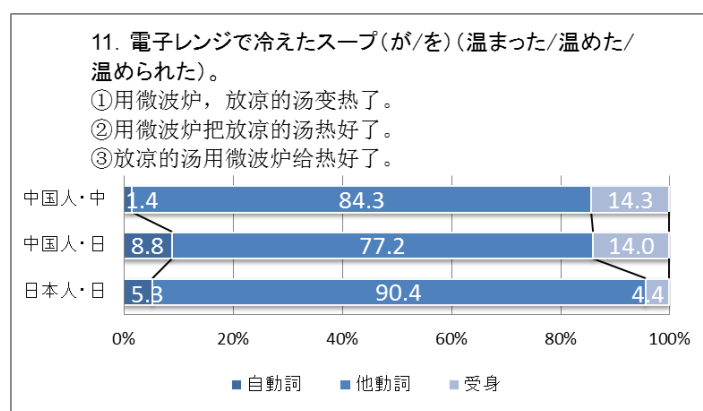


図6

6. 動作主の不注意による対象の変化を表す場合(事態⑩)

事態⑩は、動作主の不注意による対象の変化を表す場合である例3～例9(図7～図13)。この場合、日本語話者の日本語では全体的に他動詞文の選択率が6割以上と高くなるが、学習者の日本語では必ずしもそうはなっていない。また、中国語話者の中国語を見ると、例3～例5(図7～図9)で自動詞文の選択率が6割以上となるのに対し、例6～例9(図10～図13)では他動詞文の選択率が6割以上になるという違いがある。

日本語の場合、動作主に意志はなくても、動作主が注意していれば当該の事態は起きなかったであろうと思われる場合には、動作主の行為に焦点が当たって他動詞文が選択されやすくなる。この場合、動作主は当該事態を実現させた責任者(裏を返せばすべき注意の不履行者)として描かれる。

一方、中国語の場合は、同じ動作主の不注意による場合でも、例6～例8(図10～図12)の「枝の切断」、「皿の破壊」、「シャツの汚染」のように動作主から対象への(意図性はなくと

も)直接的な働きかけがある場合には、動作主の行為に焦点を当てた他動詞文が選択されやすいのに対し、例3～例5(図7～図9)の「単位の不取得」、「財布の落下」、「自己の骨折」のように動作主から対象への直接的な働きかけとは言いにくい場合には、結果の描写に焦点を当てた自動詞文が選択されやすいという違いが見られる。また、例9(図13)の「胃の故障」は、「飲みすぎ」によって動作主が自らの身体にダメージを与えたものであるという点で他動詞文的なイメージが強い。しかし、「胃の故障」は度重なる飲酒の結果によるものであるという自然発生的なイメージもあるため、「枝の切断」、「皿の破壊」、「シャツの汚染」に比べると動作主から対象への直接的な働きかけというイメージは薄い。そのため、自動詞文を選択した人が3割弱、他動詞文を選択した人が6割強と、他の文に比べて自他の差が小さくなっていると考えられる。

このように、同じ「動作主の不注意による対象の変化を表す場合」と言っても日中両語で自他の選択に違いがあるため、事態⑩は少し複雑である。以下、例3～例9(図7～図13)の順に見ていくことにする。(巻末の[資料]参照)

まず、例3(図7)は、動作主の勉強不足による「単位の不取得」を表す場面である。この場合、日本語話者の95.6%が他動詞文を選択するのに対し、学習者は28.1%しか他動詞文を選択せず、61.4%もの人が自動詞文を選択している。ここで中国語話者の中国語を見ると、学習者と同様に自動詞文を選択する人が70.5%と多数で、他動詞文を選択する人は27.6%しかいない。このことから、学習者は中国語の感覚で例3を捉えていることが分かる。

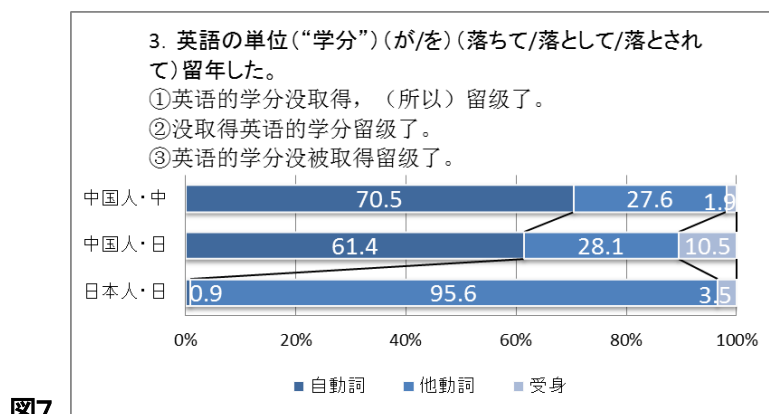


図7

次の例4(図8)は、動作主の不注意による「財布の落下」を表す場面である。この場合、日本語話者は他動詞文を選択する人が59.6%と一番多いが、自動詞文を選択する人も37.7%おり、例3ほどは自他の差がついていない。これは「財布の落下」は自然現象と捉え

ることも可能で、動作主の責任を含意しない自動詞表現が許容されやすいためである。これに対し、中国語では「財布の落下」を自然現象と捉えて自動詞文を選択する人が 79.5% もおり、他動詞文を選択する人は 7.1%しかいない。ここで学習者の日本語を見ると、他動詞文の選択率が 41.5%と日本語話者よりはやや低いものの、母語である中国語よりも目標言語である日本語に近い感覚で例4を捉えていることが分かる。

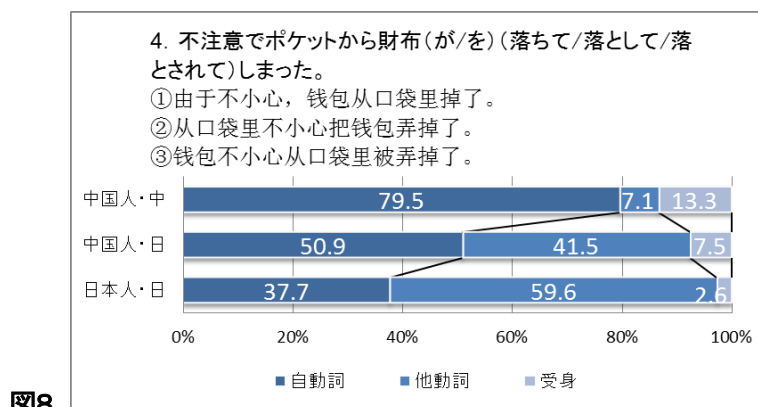


図8

次の例5(図9)は、動作主の不注意による「自己の骨折」を表す場面である。この場合、日本語話者は他動詞文を選択する人が 80.7%と最も多いのに対し、中国語ではこれを自然現象と捉えて自動詞文を選択する人が67.6%と最も多い。ここで学習者の日本語を見ると、自動詞文、他動詞文、受身文の選択率がおおよそ三分の二つとなっており、母語である中国語とも目標言語である日本語とも異なる結果になっている。

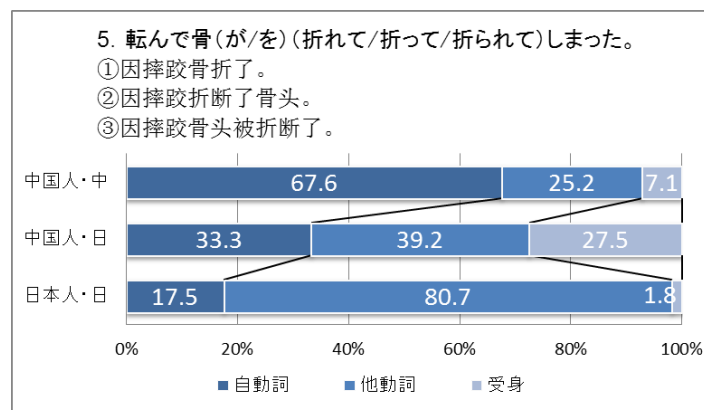


図9

次の例6(図10)は、動作主の不注意による「枝の切断」を表す場面である。同じ「対象の切断」を表す表現でも、例5の「自己の骨折」は動作主自身の身体に影響を及ぼすのに対し、例6の「枝の切断」は動作主とは別の個体に影響を及ぼすという点で違いがある。この場合、日本語話者、学習者、中国語話者とも他動詞の選択率が80%以上と高い。したがっ

て、このような表現は学習者にとって習得しやすい表現であると考えられる。

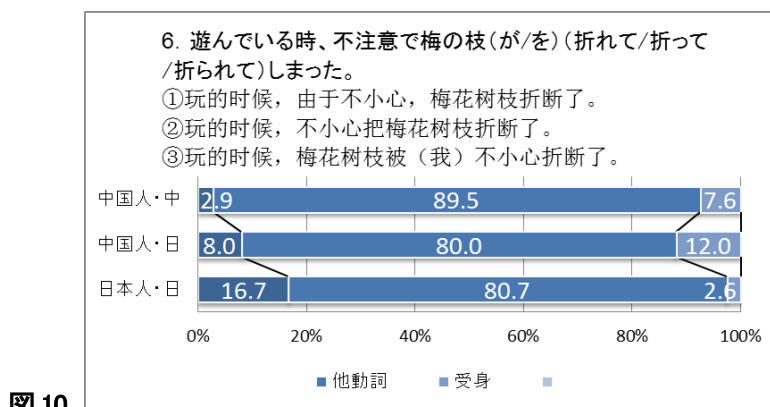


図 10

次の例7(図 11)は、動作主の不注意による「皿の破壊」を表す場面である。この場合も例6と同様に日本語話者、学習者、中国語話者ともに他動詞の選択率が70%以上と高く、学習者にとって習得しやすい表現であることが分かる。

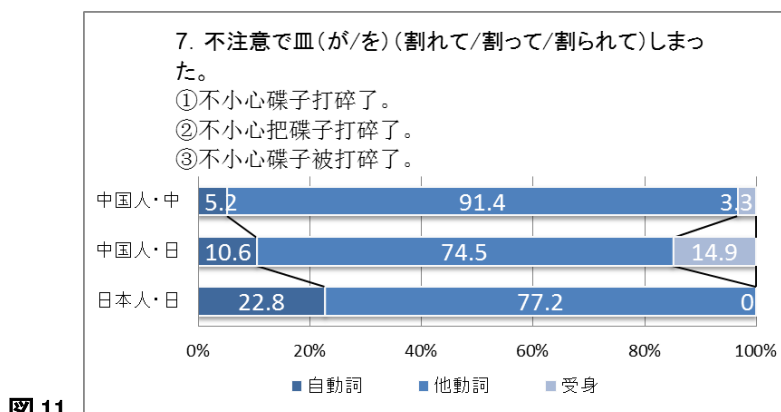


図 11

次の例8(図 12)は、動作主の不注意による「シャツの汚染」を表す場面である。この場合、日本語話者は他動詞文を選択する人が61.9%と一番多いが、自動詞文を選択する人も38.1%おり、例6や例7ほどは自他の差がついていない。これは「シャツの汚染」は洗えば落ちるが、「枝の切断」や「皿の破壊」は対象の復元が困難であり、対象への働きかけが強くイメージされるためであると考えられる。これに対し、中国語では他動詞文を選択する人が74.8%と高く、次いで受身文を選択する人が19.5%おり、自動詞文を選択する人は5.7%しかいない。これは中国語では動作主以外の対象への働きかけを表す場合は他動詞文を取りやすいためであり、受身文を選んだ人はシャツを主語にしてその被害を思い描いたためであると考えられる。ここで学習者の日本語を見ると、他動詞文、受身文の選択率がそれぞれ約4割で、自動詞文の選択率が15.4%となっている。そのため、日本語話者、学習者、

中国語話者の選択傾向はすべて異なる結果となっている。このように、例8は他の例に比べて学習者が受身文を選択する割合が大きいという点で特徴がある。これは対象の被害を受身文で表そうとしたためであると考えられる。しかし、日本語話者は自分自身の行為によって自分自身が被害を受けた場合には受身文を使いにくいので、日本語教育上注意が必要な表現であると思われる。

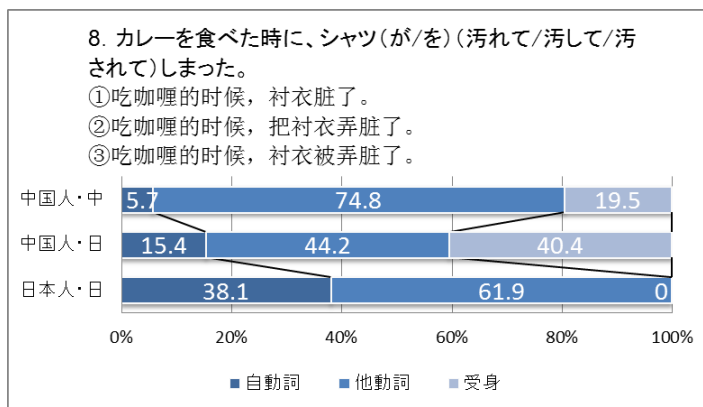


図 12

最後の例9(図 13)は、動作主の不注意による「胃の故障」を表す場面である。この場合、日本語話者は35.1%の人が自動詞文を選択し、64.9%の人が他動詞文を選択するというように自他の割合がおおよそ2対1になっている。この点で中国語も同様の傾向を示している。これに対し、学習者は他動詞文の選択率が42.3%と少なく、受身文の選択率が19.2%と多くなっている。これも対象の被害を受身文で表そうとしたためであると考えられる。しかし、日本語話者は自分自身の行為によって自分自身が被害を受けた場合には受身文を使いにくいので、これも日本語教育上注意が必要な表現である。

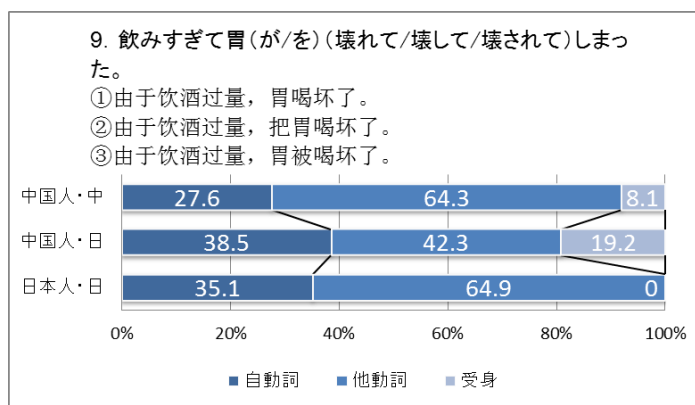


図 13

7. まとめ

以上、本稿では動作主の不注意による対象の変化を表す場合を中心に、中国語話者における日本語の有対動詞の自動詞・他動詞・受身の選択について見てきた。その結果、日本語話者はこのような場面で他動詞文を選択しやすいのに対し、学習者の日本語や中国語話者の中国語では必ずしもそうはならず、日本語教育上注意が必要な場合があることを指摘した。

付記:本稿は平成22-25年度科学研究費補助金(基盤研究(B))(課題番号22320093)による研究成果の一部である。

[参考文献]

- 小林典子(1996)「相対自動詞による結果・状態の表現—日本語学習者の習得状況」『文藝言語研究・言語篇』29, 筑波大学文芸・言語学系, pp.41-56
- 杉村 泰(2013a)「対照研究から見た日本語教育文法 —自動詞・他動詞・受身の選択—」『日本語学』2013年6月号 第32巻第7号(通巻410号), 明治書院, pp. 40-48
- 杉村 泰(2013b)「中国語話者における日本語の有対動詞の自動詞・他動詞・受身の選択について —人為的事態の場合—」『日本語／日本語教育研究』[4]2013, 日本語／日本語教育研究会・ココ出版, pp. 21-38
- 杉村 泰(2013c)「中国語話者の日本語使用に見られる有対動詞の自・他・受身の選択 —被害や迷惑の意味を表す場合—」『漢日語言対比研究論叢』第4輯, 漢日対比語言学研究(協作)会編、北京大学出版社, pp. 275-286
- 曾ワンティン(2012)『中国語母語話者における有対他動詞の受身表現と自動詞の使い分けについて』名古屋大学修士学位論文
- 中村祐理子(2002)「中級学習者の受身使用における誤用例の考察」『北海道大学留学生センター紀要』6, 北海道大学留学生センター, pp.21-36
- 守屋三千代(1994)「日本語の自動詞・他動詞の選択条件—習得状況の分析を参考に」『講座日本語教育』29, 早稲田大学日本語研究教育センター, pp.151-165

[資料]

1. もう授業(が/を) (始まって/始まって/始まって)いるから急ごう。

	が自			を他			がを受		
	頻度	比率	調整済みの残差	頻度	比率	調整済みの残差	頻度	比率	調整済みの残差
1. 日本人の日本語	113	1.000	-	0	0.000	-	0	0.000	-
2. 中国人の日本語	52	0.963	-	1	0.019	-	1	0.019	-
3. 中国人の中国語	208	0.990	-	1	0.005	-	1	0.005	-
独立性の検定の結果	$\chi^2(4)=4.828, p=.305, n.s.$								

2. この町には鉄道(が/を) (通って/通って/通って)いる。

	が自			を他			がを受		
	頻度	比率	調整済みの残差	頻度	比率	調整済みの残差	頻度	比率	調整済みの残差
1. 日本人の日本語	110	0.965	-	2	0.018	-	2	0.018	-
2. 中国人の日本語	41	0.911	-	3	0.067	-	1	0.022	-
3. 中国人の中国語	183	0.871	-	16	0.076	-	11	0.052	-
独立性の検定の結果	$\chi^2(4)=7.964, p=.093, n.s.$								

3. 英語の単位(“学分”) (が/を) (落ちて/落として/落として)留年した。

	が自			を他			がを受		
	頻度	比率	調整済みの残差	頻度	比率	調整済みの残差	頻度	比率	調整済みの残差
1. 日本人の日本語	1	0.009	-12.1	109	0.956	12.15	4	0.035	-0.11
2. 中国人の日本語	35	0.614	2.15	16	0.281	-3.27	6	0.105	2.98
3. 中国人の中国語	148	0.705	9.6	58	0.276	-8.84	4	0.019	2.03
残差分析の結果	2>3>1 1>2>3								
独立性の検定の結果	$\chi^2(4)=162.262, p<.001$								

4. 不注意でポケットから財布(が/を) (落ちて/落ちて/落ちて)しまった。

	が自			を他			がを受		
	頻度	比率	調整済みの残差	頻度	比率	調整済みの残差	頻度	比率	調整済みの残差
1. 日本人の日本語	43	0.377	-6.65	68	0.596	9.07	3	0.026	-2.93
2. 中国人の日本語	27	0.509	-1.94	22	0.415	2.39	4	0.075	-0.47
3. 中国人の中国語	167	0.795	7.51	15	0.071	-10.06	28	0.133	3.04
残差分析の結果	3>2>1 1=2>3								
独立性の検定の結果	$\chi^2(4)=162.521, p<.001$								

5. 転んで骨(が/を) (折れて/折れて/折られて)しまった。

	が自			を他			がを受		
	頻度	比率	調整済みの残差	頻度	比率	調整済みの残差	頻度	比率	調整済みの残差
1. 日本人の日本語	20	0.175	-7.74	92	0.807	9.46	2	0.018	-3.03
2. 中国人の日本語	17	0.333	-2.21	20	0.392	-0.74	14	0.275	5.35
3. 中国人の中国語	142	0.676	8.7	53	0.252	-8.26	15	0.071	-0.89
残差分析の結果	3>1=2 1>2>3								
独立性の検定の結果	$\chi^2(4)=122.22, p<.001$								

6. 遊んでいる時、不注意で棒の枝(が/を) (折れて/折れて/折られて)しまった。

	が自			を他			がを受		
	頻度	比率	調整済みの残差	頻度	比率	調整済みの残差	頻度	比率	調整済みの残差
1. 日本人の日本語	19	0.167	4.27	92	0.807	-1.77	3	0.026	-2.08
2. 中国人の日本語	4	0.080	0.07	40	0.800	-1.2	6	0.120	1.62
3. 中国人の中国語	6	0.029	-4.01	188	0.895	2.47	16	0.076	0.82
残差分析の結果	1>2>3 3>1=2								
独立性の検定の結果	$\chi^2(4)=24.247, p<.001$								

7. 不注意で皿(が/を)(割れて/割って/割られて)しまった。

	が自			を他			がを受		
	頻度	比率	調整済みの残差	頻度	比率	調整済みの残差	頻度	比率	調整済みの残差
1. 日本人の日本語	26	0.228	4.65	88	0.772	-2.76	0	0.000	-2.54
2. 中国人の日本語	5	0.106	-0.16	35	0.745	-2.14	7	0.149	4.28
3. 中国人の中国語	11	0.052	-4.22	192	0.914	4	7	0.033	-0.51
残差分析の結果	1>2>3 3>1>2 2>3>1								
独立性の検定の結果	$\chi^2(4)=42.433, p<.001$								

8. カレーを食べた時に、シャツ(が/を)(汚れて/汚して/汚されて)しまった。

	が自			を他			がを受		
	頻度	比率	調整済みの残差	頻度	比率	調整済みの残差	頻度	比率	調整済みの残差
1. 日本人の日本語	43	0.381	7.23	70	0.619	-1.27	0	0.000	-5.66
2. 中国人の日本語	8	0.154	-0.29	23	0.442	-3.7	21	0.404	4.99
3. 中国人の中国語	12	0.057	-6.48	157	0.748	3.75	41	0.195	1.76
残差分析の結果	1>2>3 3>1>2 2>3>1								
独立性の検定の結果	$\chi^2(4)=89.884, p<.001$								

9. 飲みすぎて皿(が/を)(壊れて/壊して/壊されて)しまった。

	が自			を他			がを受		
	頻度	比率	調整済みの残差	頻度	比率	調整済みの残差	頻度	比率	調整済みの残差
1. 日本人の日本語	40	0.351	1.02	74	0.649	0.91	0	0.000	-3.56
2. 中国人の日本語	20	0.385	1.18	22	0.423	-3.05	10	0.192	3.63
3. 中国人の中国語	58	0.276	-1.77	135	0.643	1.28	17	0.081	0.77
残差分析の結果	有意差なし 1=3>2 2>3>1								
独立性の検定の結果	$\chi^2(4)=24.821, p<.001$								

10. コーヒーにミルク(が/を)(入って/入れて/入れられて)飲む。

	が自			を他			がを受		
	頻度	比率	調整済みの残差	頻度	比率	調整済みの残差	頻度	比率	調整済みの残差
1. 日本人の日本語	3	0.026	-4.13	109	0.956	3.82	2	0.018	0.48
2. 中国人の日本語	2	0.037	-2.32	52	0.963	2.52	0	0.000	-0.92
3. 中国人の中国語	47	0.224	5.44	160	0.762	-5.3	3	0.014	0.2
残差分析の結果	3>1=2 1=2>3 有意差なし								
独立性の検定の結果	$\chi^2(4)=30.713, p<.001$								

11. 電子レンジで冷えたスープ(が/を)(温まった/温められた/温められた)。

	が自			を他			がを受		
	頻度	比率	調整済みの残差	頻度	比率	調整済みの残差	頻度	比率	調整済みの残差
1. 日本人の日本語	6	0.053	1.08	103	0.904	1.9	5	0.044	-2.78
2. 中国人の日本語	5	0.088	2.22	44	0.772	-1.8	8	0.140	0.71
3. 中国人の中国語	3	0.014	-2.58	177	0.843	-0.5	30	0.143	2.05
残差分析の結果	2>1>3 有意差なし 3>2>1								
独立性の検定の結果	$\chi^2(4)=15.366, p<.01$								